

「草津街あかり」「草津アート市」を通して まちなかに集客の魅力を創り出す。

草津まちづくりNPO



旧草津川を1万灯のロウソクで彩る「あかり銀河」

人口増加が続くなか まちなか活性化に取り組むNPO

1万本ものロウソクが旧草津川に灯った昨年11月4日の「あかり銀河」。旧中山道沿い、旧東海道沿いの商店街も華やかなイルミネーションロードに変わった。すらりと並ぶ提灯や行灯の列。小汐井神社などの6カ所の社寺には光のインスタレーション(空間を作品化する芸術)が登場。史跡草津宿本陣のライトアップ企画とも連動してJR草津駅東口周辺は一夜で1万6千人が訪れた。

イベントの総称は「草津街あかり 華あかり 夢あかり」。草津宿本陣周辺の地域団体が2004年に始めたのを06年に、NPOの前身である草津まちづくり委員会が引き継いだ。「私たちは企画・運営を担当。自治会や商店街、ボランティア団体、立命館大学の学生さんなど多数の市民が準備、運営に汗を流してくれた。そんな草津を愛する人たちの輪は年々広がっている」。理事長の伊勢村恭司さんは春の宿場まつり、夏の納涼まつりとは一味違った秋の「ハイセンスなイベント」に育てたいと意気込む。

「特に大きな収穫はマンション立地で増えた新住民層をまちなかへ呼び込めたこ

と。普段は商店街を訪れないこの層に、草津に内在する魅力に気付いてもらえる機会としても定着させたい」。伊勢村さんによれば、昭和40年代に相次いだ大規模店の登場は購買客の流れを激変させた。以来、

旧街道沿いの商店街を軸にする草津のまちなかは往時の活気を取り戻せないままだという。

県内トップレベルの人口増加率を誇る草津市にあって、玄関口であるJR草津駅の東側がこのような状態にあるとは意外だった。後継者難など他地域の商店街と共通する悩みを持つ。商業地としては本来ポテンシャルが高い草津のまちなかだが、それをどう生かして「まちのFAN」獲得につなげるか。問題意識を持つ事業者、商店主が集まって、09年に「草津まちづくりNPO」が誕生。商工会議所や行政と連携して「まちなか活性化」に取り組んでいる。

JR草津駅東口をパワーアップして 「都会的な魅力」を活性源に

伊勢村さんたちは「草津は都会的な景観を形成しつつある点が県内他地域にない最大の魅力だ」と考え、これを生かすための活性化プログラムを市へ提案している。草津駅東口前のデッキを緑あふれるガーデン空間に変え、駅周辺に「個性的でハイセンスな店舗」を集めて駅前の集客力と交流機能をパワーアップさせることで、都市の玄関口としての魅力を高めるというもの。

さらに毎月第3土曜日には「草津アート

市」を草津駅東口デッキ広場で催している。布小物、革製品などおしゃれ感のある手づくり商品を集めたバザールだ。これは「個性的でおしゃれな店が周囲に増えればビジターだけでなく新住民層を必ず呼び込める」という思いに基づく取り組みである。アート市を「魅力あるお店の誘致活動の場」に育てるとともに、「ハイセンスな品を求める購買層の定着」が狙いだ。

「食べる・買う・泊まる」などを切り口に、周辺店舗の発信力を高めることを目的としてWEBサイト「週末草津」も運営している。「まだまだ課題はあるが、草津はいま内側から光を放ち始めている」と伊勢村理事長。地域が主体となる活動にこれからも注目していきたい。



毎月第3土曜日に開催される草津駅前バザール「草津アート市」



理事長：伊勢村恭司

草津まちづくりNPO

- 事務所/草津市大路2-11-51
- 設立/2009年 ■代表者/伊勢村恭司
- 活動目的/草津中心市街地を訪れる人すべての交流拠点となるまちづくり
- URL/<http://www.kusatsufan.jp/>